

「関西のインフラ強化を進めるために」第18回シンポジウム

(一社)近畿建設協会

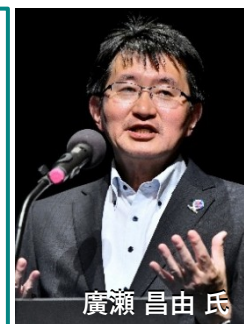
この度、産経新聞社・「関西のインフラ強化を進める会」（近畿建設協会・建設コンサルタンツ協会近畿支部）の主催、国土交通省近畿地方整備局・近畿運輸局の後援によりシンポジウムを開催しましたのでご報告いたします。

本シンポジウムでは、「広域地方計画と近畿圏の将来像」をテーマに、2026年6月に新たに策定された近畿圏広域地方計画の理解を深めるとともに、産官学が協働して取り組むべき広域的な地域づくりの方向性を共有し、重点施策の実行向上に寄与することを目的に、有識者と関係者による基調講演、パネルディスカッションを行いました。

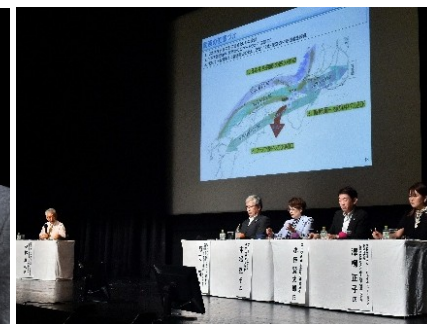
- ① 日 時：2026年8月18日(火) 13:30～16:40
- ② 会 場：エル・シアター（大阪市中央区北浜）
- ③ 主 催：産経新聞社
関西のインフラ強化を進める会、
（近畿建設協会・建設コンサルタンツ協会近畿支部）
- ④ 参 加：約400名

◆基調講演 国土交通省 技監 廣瀬 昌由 氏

人口推移や法整備、過去の大災害などを振り返りながら、社会情勢の変化を踏まえた今後のインフラ整備の方向性を解説。今後の展望として、インフラを賢く整備・維持できるようなシステムとそれを支える技術を開発し、AIなどの新しい技術を活用しながら、時代の変化を見据えた新規整備に取り組んでいきたいと強調した。



廣瀬 昌由 氏



◆ パネルディスカッション

「次期広域地方計画と近畿圏の将来像」をテーマに、「広域地方計画」との関わり方や今後の推進のあり方、これからの日本における関西の位置づけやあるべき姿について意見交換を行った。



小林 潔司 委員長



小林 賢太郎 氏



都司 尚 氏

◀木場氏 インフラの強靱化には、ハードだけでなく、ソフト面、特に人材の強靱性を高めなければならない。

◀小林氏 これからの関西は、西日本中央回廊の西の拠点としての位置を確立すると共に、アジア圏への玄関口としての役割を強めていくことが重要。

◀澤柳氏 観光業では従来のモノ消費から変化し、最終的には人と人とのかわりが重要。シニアの活躍など、社会の変化に対応した方策が必要。

◀都司氏 南北のラインだけでなく、夢洲からけいはんの東西にまたがるヒンフラを整備し、関西が面として発展していくことが重要。

◀小林委員長 「KX(カンサイ・トランスフォーメーション)」に向けて、インフラや人材、観光など、幅広い分野で関西の将来像を描くことが肝要。



木場 弘子 氏



澤柳 正子 氏

プログラム	
13:30～13:40	開会挨拶 谷本 光司 一般社団法人近畿建設協会 理事長
13:40～14:40	基調講演「これまでのインフラ整備と今後の展望」 廣瀬 昌由 氏 国土交通省 技監
14:40～15:00	休 憩
15:00～16:40	パネルディスカッション「次期広域地方計画と近畿圏の将来像」
コーディネーター	小林 潔司 氏 関西のインフラ強化を進める会 委員長 京都大学経営管理大学院 特任教授／土木学会 元会長
パネリスト (※五十音順)	
木場 弘子 氏	フリーキャスター／千葉大学客員教授
小林 賢太郎 氏	国土交通省 近畿地方整備局長
澤柳 正子 氏	近畿圏広域地方計画有識者会議 元委員 株式会社リクルート ジャーナルリサーチセンター 客員研究員
都司 尚 氏	近畿圏広域地方計画有識者会議 元委員 近鉄グループホールディングス株式会社 代表取締役会長

※プログラムについては変更の可能性があります。

「技術を活用し

インフラ維持」

エル・おおさかシンポ

6月に策定された近畿圏広域地方計画の理解を深めるシンポジウム「関西のインフラ強化を進めるために」次期広域地方計画の展望と近畿圏の将来像―（産経新聞社、関西のインフラ強化を進める会共催）が18日、大阪市中央区のエル・おおさかで開催され、約400人が聴講した。

基調講演では、国土交

通省の廣瀬昌由技監がこれまでのインフラ整備を踏まえた上で、気候変動に対応した新たな水災害対策などを解説し写真。今後の展望として「さま



ざまな技術を活用してインフラを整備し、維持していかなければならない」と強調した。

パネルディスカッションでは、同会の小林潔司委員長がコーディネーターを務め、フリーキャスターの木場弘子氏、国交省近畿地方整備局の小林賢太郎局長、リクルートじゃらんリサーチセンター客員研究員の澤柳正子氏、近鉄グループホールディングスの都司尚会長が登壇。新たな広域地方計画について意見を交わした。

産経新聞（2026年8月19日）

【開催予告】 第19回シンポジウム

日時：2026年10月29日(木) (予定)

会場：インテックス大阪 6号館 (予定)

講演する廣瀬技監



として近畿地方整備局の小林賢太郎局長、フリーキャスターで千葉大学客員教授の木場弘子氏、近畿圏広域地方計画有識者会議委員を務めた近鉄グループホールディングスの都司尚代表取締役会長と、リクルートじゃらんリサーチセンターの澤柳正子客員研究員が登壇した。

関西のあるべき姿について、小林局長は道路ネットワ



谷本理事長

広域地方計画踏まえ将来像議論

関西のインフラ強化を進める会がシンポ



パネルディスカッション

インフラを整備し、関西が面として発展していくことが重要だ」と強調した。

観光の観点からは、澤柳氏が「観光業では従来のモノ消費から、コト消費、トキ消費などへの変化がうたわれているが、最終的には人と人の関わりが大切になる」と話し、シニアの活用など、社会の変化に対応した方策の必要性を訴えた。

木場氏は、自ら計画策定に携わった第3次国土形成計画のポイントを説明。その上でインフラを強化していくには「ハードだけでなく、ソフト面、特に人材の強靱性を高めなければならない」と述べた。

最後に小林委員長は、近畿圏広域地方計画のキーコンセプト「KX（カンサイ・トランスフォーメーション）」に触れ、「関西は変化しなくてはならない」と力を込めてはならない。

都司会長は関西の都市構造について、「御堂筋の南北のラインだけでなく、咲洲からけいはんの東西にまたがるウムを締めくくった。

関西の産学官で構成する「関西のインフラ強化を進める会」（委員長＝小林潔司京都大学経営管理大学院特任教授）は18日、大阪市内で第18回シンポジウムを開催した。約400人が参加。6月に策定された新たな近畿圏広域地方計画を踏まえ、これからの関西の方向性について基調講演やパネルディスカッションを通じて議論を深めた。

冒頭、近畿建設協会の谷本光司理事長は、直近の災害に触れ、「改めて国土強靱化について真剣に考えなければならぬ」とあいさつ。続いて、国土交通省の廣瀬昌由技監が「これまでのインフラ整備と今後の展望」をテーマに基調講演を行った。人口推移や法整備、過去の災害などを振り返りながら、社会情勢の変化を踏まえた今後のインフラ整備の方向性を解説した。

パネルディスカッションでは、近畿圏広域地方計画の展望と近畿圏の将来像をテーマに議論した。コーディネーターは小林委員長。パネリスト

日刊建設工業新聞
(2026年8月21日)